

2016 EMP SEMINAR SERIES

BUSINESS AND ENGINEERING SPECIAL LECTURE

Program for Leading Graduate Schools
Held by Ph.D. Program in Empowerment Informatics
Host: Yoshihiro Hamakawa, Professor,
School of Integrative and Global Majors (SIGMA)



講師

TAKASE SUSUMU

高瀬 進

京都大学工学研究科
メカトロニクス研究室 研究員

神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了（博士（経営学））。山口大学技術経営研究科を経て、現職。専攻は、アントレプレナーシップ、ハイテク・大学発ベンチャー。

日本における黎明期のラクロス普及、大学運営支援会社のスタートアップを手掛ける。その後、ベンチャー研究に従事し、ハーバート・サイモンの最晩年の弟子にあたるサラス・サラスバシーによる熟達した起業家の意思決定に関する理論書『エフェクチュエーション』（翻訳、中央経済社、2015）等。現在は、レスキューロボットの事業化、NCAA 日本版導入のアクションリサーチの他、京都大学デザインスクール FBL/PBL 演習「ロボットと社会のデザイン」「事業デザイン」を担当。



アントレプレナーシップ入門

日時

2016年11月4日（金） 12:15～15:00

会場

エンパワースタジオ

企業家（アントレプレナーシップ）研究は、かつて、経済学分野におけるイノベーションを巡る古典的なりサーチアジェンダでした。一方、2000年以降、ノーベル経済学賞受賞者のハーバート・サイモンの最晩年の弟子にあたるサラス・サラスバシーによって、優れた起業家の意思決定プロセスに関するエフェクチュエーションの研究が興隆してきました。この研究潮流は、事業機会の認識に関するエキスパート（熟達者）という文脈から、基礎学問として認知科学や人工知能の知見を参照することで、経営学やマーケティング分野の学問領域のみならず、スタートアップの実務においても、世界レベルで大きな影響を与えつつあります。したがって、本セッションでは、先端的なアントレプレナーシップ研究の概要をお伝えすると同時に、スタートアップに関連したコンピュータの事業化に関する古典的な日米比較事例研究を通じて、皆さんと理解を深めたいと思います。